2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　千葉　晋
学科名・専攻名　北方圏農学科

1．教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☑　している ☐　一部している ☐　していない	☑　講じている ☐　一部講じている ☐　講じていない	☑　行っている ☐　一部行っている ☐　行っていない	☑　している ☐　一部している ☐　していない	☑　行っている ☐　一部行っている ☐　行っていない
点検項目に対する現状説明	分子から生態系まで、作物・家畜から野生動植物まで、基礎から応用までの幅広い知識を、実践的な環境で学べるのが本学科の特徴である。これらを無理なく、横断的、積み上げで学ぶことのできるカリキュラムを配当している。	・各教員における講義毎の見直し ・講義毎あるいは定期的な受講生からのコメントの回収と分析 ・オンラインツールやオンデマンド教材を使用したインタラクティブ講義の工夫 ・授業評価の実施と結果の分析 ・学科独自内容のリメディアル教育	・学則とシラバスに基づき、各教員が適切な評価を行っている ・学務の方針に基づき、評価とその報告をもれなく行っている ・オフィスアワーを設けるなど、学生からの「成績相談」に真摯に対応している	・前期と後期に最低 1 回ずつの個人面談を実施し、個人の目標設定を支援 ・定期試験や課題による評価 ・欠席の多い学生がいた場合、毎週の学科会議で報告・情報共有し、担任から指導、必要であれば保護者にも連絡している	・本年度の新入生から導入される新カリキュラムにおいて、抜本的な見直しを行っている
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・高校のカリキュラムに依存せず、自分の興味を展開、深められる	【長所】 ・学生の興味と資質に配慮した講義	【長所】 ・適切である	【長所】 ・学生の質の担保 ・学生の満足度向上	【長所】 ・より学生の負担が少なく、より興味と理解が深まる授業の構成となる予定
	【特色】 ・卒業研究に必要な専門性の高い知識を得るための導入となる	【特色】 ・講義の質向上について、それぞれで工夫する教員がいる	【特色】 ・適切である	【特色】 ・教科担当者と担任の連携によるきめ細かい指導。	【特色】幅の広い領域・内容をカバー ・分子から生態系まで ・作物・家畜から野生動植物まで ・基礎から応用まで
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・オムニバス講義、回数の少ない実習では学生の問題の発覚が遅れがち	【問題点】 ・分野・内容による授業数のバランスに配慮する
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・卒業年次における単位取得に無理がないように、3 年次までの成績指導と学生の意識向上を喚起する	【課題】 ・教科によっては期末評価に頼らず、中間評価で成績不振学生を指導する	【課題】 ・より良いカリキュラムとする
根拠資料名	・シラバス ・カリキュラムツリー ・履修モデル	・シラバス ・授業評価アンケート結果 ・自己教育評価	・各授業の出席・成績記録 ・実験・実習の記録 ・小テスト・レポート・定期試験の記録	・各授業の出席・成績記録 ・実験・実習の記録 ・小テスト・レポート・定期試験の記録 ・学生カルテ（成長の記録）	・学科会議資料 ・シラバス

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

２．学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☑　している □　一部している □　していない	☑　行っている □　一部行っている □　行っていない
点検項目に対する現状説明	・大学案内と Web でアドミッションポリシーを公開している ・キャンパス説明会等においてアドミッションポリシーを説明している。 ・推薦系入試の小論文でアドミッションポリシーに基づいた出題を行い、その理解度を小論文と口頭試問で評価している ・推薦系入試における口頭試問の内容は事前に会議で確認し、当日の面接を 2 名で行っている ・上記の内容は数値化した上で学科合否判定会議において報告・共有され、客観性・公正性を保つようにしている	・入試の制度、科目については毎年点検している。 ・入試毎に学科会議で事前・事後の話し合いを行っている ・入学者の成績、学籍移動を追跡し、入学受験制度による違いを分析している ・入学者・卒業生、同保護者からのアンケートを実施・解析し、改善・向上に繋げている ・学生受け入れについて、学科会議で活発な討議と意見交換を行っている ・学科における入試対策実行委員を任命した
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・入学に際し、学科の特徴をよく理解して志望する機会を多数かつ様々な手段で与えている ・入学後に学科の内容と志望動機にずれが生じず、多くの学生が目的のある大学生活を送れる	【長所】 ・情報の共有と意見交換がなされている ・学生と保護者の要望について PDCA を行っている ・学科の入試対策について様々な試みが提言されている
	【特色】 勉学だけでなく、キャンパスの地域特性に合った学生の資質、例えば適応能力やたくましさを評価すべく工夫している	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・農学を志望する受験者、首都圏から地方大学を志望する受験者の全体数が減少しており、その対応の一環として志望動機が明確な年内入試の受験者の動向を把握する	【問題点】 ・多様な入試制度は、学生の学力や意識の差をもたらす可能性がある
	【課題】 ・入学受験制度別に入学者の成績の追跡を行い、検証していく	【課題】 ・入学前教育と入学後におけるリメディアル教育の充実
根拠資料名	・入試合否判定の内部資料 ・大学案内、大学 HP、学科 SNS ・入試対策実行委員会の資料	・学科会議資料 ・入試対策実行委員会資料

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

３．教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	□　している ☑　一部している □　していない	☑　している □　一部している □　していない	☑　行っている □　一部行っている □　行っていない	□　つなげている ☑　一部つなげている □　つなげていない	□　行っている ☑　一部行っている □　行っていない
点検項目に対する現状説明	・現在の編成については、大学案内、大学 HP、学部・学科・課程紹介に記載している ・教員組織編成の方針については人事に関わるため、学科教授会のメンバーで共有している ・編成方針に大きな変更はない	・教員配置は前年度と変更がない。 ・教員の年齢や職階について定期的に確認を行い、准教授と助教の研究実績向上を意識した補職や委員会委員の編成に努めている	・年度初頭と中間の学科教授会で昇格人事を検討し、方針を見直している ・本年度は 1 件の専任化人事（任期制助教→専任助教）を行った。 ・教員の定員を充足しており、退職による欠員がないため、募集・採用はない	・依命国外留学制度への応募意識を醸成 ・各教員が様々な補職や委員会委員を経験し、大学人としての職務経験を積めるように配慮している ・特定の教員に業務が集中し、過剰労働とならないように分担に配慮している ・学科業務に多くの時間が割かれ、資質向上に関する努力は個人任せとなっているのが現状	・安定した組織であるため、大幅な見直しはできない ・ライフステージ、家庭環境、昇格目標に合わせて業務分担を見直している ・メンタルヘルスを含めた健康に配慮しながら、業務分担を行っている ・所属長による勤務状況の把握
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・特にない	【長所】 ・特になし	【長所】 ・成熟した組織としての安定感	【長所】 ・業務集中、過剰労働を避ける意識がある	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特にない	【特色】 ・特になし	【特色】 ・成熟した組織としての安定感	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・定年退職予定者の枠取り方針、教員の年齢構成 ・若手教員、女性教員が少ない	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・大学・学部の補職との整合性を取りつつ、学科の実務運営に必要な人的資源を確保することが難しい	【問題点】 ・文科省補助金対応、学生確保のための膨大な業務量	【問題点】 ・個々の教員の自己実現をサポートする組織体制がない。 ・点検・評価が所属長任せであり、大学・学部としての客観的なスキームや指標がない
	【課題】 ・学部・学科構想	【課題】 ・大学・学部の補職との人材調整 ・業務負担の平準化	【課題】 ・昇格候補者のサポート ・学部や学科の将来構想へ向けた意識共有、連携	【課題】 ・教員の質的向上のための機会提供 ・不要な業務の整理	【課題】 ・個人の努力で組織が維持されており、中長期的な展望の共有がなされていない
根拠資料名	学科教授会資料（非公開） 人事関係提出資料	学科会議資料 学科教授会資料（非公開）	学科教授会資料（非公開） 人事関係提出資料	学科会議資料 依命留学 5 カ年計画	・Web 出勤簿による勤怠管理 ・学科会議資料

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　千葉　晋
学科名・専攻名　海洋水産学科

1．教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価（☑を記入）	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する現状説明	・海洋水産学科の学位課程にふさわしい授業科目を開設することにより編成した教育課程を実施している。	・WebClass などの教育支援システムを積極的に用いて、出席管理だけではなく、授業の事前学習や復習、小テストや課題についての一元管理を行なっている。 ・学生も自身の出席状況や課題の提出状況を確認することができている。	・各教員が適切に行った単位認定に基づき学位授与を行っており、学科会議にて確認している。 ・成績不良学生に対しては GPA を基準に選定し、面談し指導している。 ・不良学生への対応については、学科会議にて共有し、議論している。	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議において変更点の有無を含め確認している。 ・各教員が適切に把握して評価している。	・学生による授業評価アンケートの結果および各教員が各科目で実施しているアンケート結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。 ・複数教員科目については、複数教員による点検・評価を行ない、改善および向上に取り組んでいる。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・海洋水産学科として必要な科目の充実化をはかっている。	【長所】 ・情報の一元化。	【長所】 ・学科による成績不良学生の把握と対策の検討。	【長所】 ・学科全体で把握に努めている。	【長所】 ・定期的に点検と評価を行い、改善することができる。
	【特色】 ・生物産業学的視点で講義・実験・実習を開講している。	【特色】 ・配属調査を複数回行うことで、自分の学びの方向性を見定めることができる。	【特色】 ・複数の教員、学科による評価。	【特色】 ・複数教員による評価の確認。	【特色】 ・学生の声を直接聞くことができることから、習得度や満足度の向上に努めることができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・生物産業学的視点において科目に偏りがみられる。	【問題点】 ・学習支援システムの利用状況が教員間で若干の差が認められる。	【問題点】 ・連絡不良学生への指導が困難な場合がある。	【問題点】 ・学科会議で議題に上がらないこともある。	【問題点】 ・1 人で行う授業の点検・評価の客観性が十分ではない可能性がある。
	【課題】 ・生物産業学的視点を踏まえた科目の充実化。	【課題】 ・学科内でのシステム利用法の講習会や利用向上に向けた取り組みを行う必要がある。	【課題】 ・成績不良学生への指導には学科教員だけではなく、保護者とも連携する必要がある。	【課題】 ・特に成績不良学生や問題を持つ学生に対する対応の情報共有の必要性。	【課題】 各教育システムを複数や学科全体による評価・点検システムの構築。
根拠資料名	カリキュラムポリシー、シラバス	学科会議資料、WebClass 利用状況記録	面談記録、学科会議議事録	学科会議議事録	学生による授業評価アンケート結果

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

２．学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☑　している □　一部している □　していない	☑　行っている □　一部行っている □　行っていない
点検項目に対する現状説明	・生物産業学部としての学生像を踏まえ，海洋水産学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。 ・入学者選抜ごとに制度や体制を点検し、選抜ごとの評価基準を学科で決めて、学科教員全員によって評価を行なった。	・入試選抜ごとに適切に評価を行っており、学科会議などでその内容の点検等を行い、必要があれば改善している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・学科教員全員によって入学選抜の評価基準を設定し、評価を行なった。	【長所】 ・学部・学科としての制度を見直した。
	【特色】 ・学科が求める学生の評価が公正に行われている。	【特色】 ・学部独自の入試制度の設計を行なった。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・複数人による評価を行うことで、学科としての評価ができているが、志願者の多い入試制度の際には時折教員間の評価のばらつきが大きい時がある。	【問題点】 ・入試制度によって入学後の成績・学修意欲が異なるような現象が認められることがある。
	【課題】 ・評価の多様性と統一性を確保するために、評価人数によっては偏りが出る可能性があるため、評価人数の適正数の検討が必要。	【課題】 ・各入試制度と入学後の成績・学習意欲との関連性の検討
根拠資料名	学科独自の受験者評価シート、学科会議議事録	生物産業学部入試対策委員会記録、学科会議議事録

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

３．教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☑　している ☐　一部している ☐　していない	☑　している ☐　一部している ☐　していない	☑　行っている ☐　一部行っている ☐　行っていない	☑　つなげている ☐　一部つなげている ☐　つなげていない	☑　行っている ☐　一部行っている ☐　行っていない
点検項目に対する現状説明	・生物産業と自然環境の共生という学部共通の学びを基礎とし、水圏の生物や生態系そして環境、その保全や増養殖に興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的に取り組むことができる人材を養成できる教員を適切に配置している。	・教育研究上の目的、教育目標、3 つの方針を実現できる学科の研究室体制と教員を配置している。	・教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページや JREC-IN で募集する。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出するようにしている。 ・採用に際して、学科による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査を実施している。	・自己点検アンケートと学生による授業評価により教員の資質の向上を図っている。 ・任期制教員は年度末に面談を行い、教育･研究目標の達成状況と課題とその対応を点検している。 ・学部内で実施される FD 研修に学科として積極的に参加するようにしている。	・学科会議において教員体制について定期的に評価し、改善案について検討し、実施している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・大学･学部のディプロマ･ポリシーに基づいている。	【長所】 ・各研究室の目的を達成できる教員体制	【長所】 ・人材を広く募集することができる。	【長所】 ・熟練教員による若手教員へのアドバイスを実施している。	【長所】 学科全体で問題の共有をはかっている。
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・研究室，分野を考慮した編成	【特色】 ・複数の段階で審査を実施し、より公正に人材を採用することができる。	【特色】 ・これまで学科で培ってきたノウハウの継承と発展。	【特色】 事前に学科内教授会で問題を抽出している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・職階のバランスは良いが、年齢構成に若干の偏りがある。	【問題点】 ・昇格に積極的で無い教員がいる。	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・業績向上に向けた支援体制の構築	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	大学 HP の教育研究上の目的・教育目標・３ポリシー	東京農業大学学部・学科・課程紹介 大学案内	大学 HP の教員･職員公募案内、JREC-IN Portal、学科会議事録	自己点検結果 学生による評価アンケート結果 任期制教員面談記録	学科会議議事録

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　千葉　晋
学科名・専攻名　食香粧化学科

1．教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価（☑を記入）	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する現状説明	・2 年目となった新カリキュラムの反省点と改善策について学科で確認している。	・学科プロジェクトの整備 ・関連企業からの特別講義の実施	・学生の成績は、学科教員に開示して確認している。	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、学科で毎年確認している。	・学生による授業評価アンケートの結果をもとに、講義内容をブラッシュアップしている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・学科の柱となる食・香・粧に関わる各論科目の充実	【長所】 ・学生の空き時間を活用した学びの促進	【長所】 ・学科教員による学生個々の成績、特に不良者の情報共有	【長所】 ・特になし	【長所】 ・定期的な点検と改善が可能
	【特色】 ・実験実習→座学→実習の順番で取り組むことで、学習を理解から体得に結びつける。	【特色】 ・実学を意識した教育	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・シラバス ・学科会議議事録	・学科会議議事録	・学科会議議事録	・特になし	・学科会議議事録

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

２．学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☑　している □　一部している □　していない	☑　行っている □　一部行っている □　行っていない
点検項目に対する現状説明	・アドミッション・ポリシーに基づき、学科の特性を考慮した学生募集に取り組んでいる。出張講義や SNS を通じた広報に力を入れている。	・入試制度ごとに学生の成績や研究室活動の動向をまとめ、評価・検証を実施している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・各ポリシーに基づいた試験科目を選定	【長所】 ・教育研究に関する学生の大まかな特徴を把握できる。
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・総合型選抜、指定校および一般推薦入試での入学者確保	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・広報の工夫	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・入学センター入試選考委員会記録 ・学科会議議事録	・特になし

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

３．教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☑ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する現状説明	・大学および学部の方針に則り、学科の教育研究上の目的および目標即した教員配置を明示している。	・教育研究上の目的、教育目標、および 3 つのポリシーを理解した上で、それを実行するべく強い意欲を持つ教員を研究室に配置している。	・教員の採用は完全公募制とし、大学 HP、JREC-IN および学科に関連する学会の HP にて公開している。 ・昇任に関しては、基準を満たした教員に関して積極的に申請するようにしている。	・任期制教員に対する教育・研究の目標達成状況を毎年面談することにより確認している。 ・専任教員については、自己点検および授業評価アンケートをもとに各自ブラッシュアップに取り組んでいる。	・学科教授会において、食・香・粧分野を柱とした教員組織（職階と年齢）について、中長期的な視野に基づいて議論している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・各学際に専門を有した教員の配置	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・学際領域をカバーした研究室体制	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・人材獲得	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・僻地にあるが故の人材確保	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・大学 HP およびそこに記載される教員、職員公募案内	・大学 HP	・大学 HP の教員、職員公募案内 ・JREC-IN Portal ・学科会議議事録	・任期制教員面談記録	・学科教授会議事録

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名　　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　　千葉　晋
学科名・専攻名　　自然資源経営学科

1．教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価（☑を記入）	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する現状説明	・学部の共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的なカリキュラムを編成している。 ・とりわけ学科の特色ある授業科目として「自然資源経営学実務演習」を開設することで、多様なフィールドワーク・演習・実習を実施している。	学科の教学 WG を中心に定期的に会議を開催するとともに、その内容を戦略企画委員会や学科会議でさらに検討している。 ・また、1 年次にテキストをベースに、アカデミックスキルを習得することで、2 年次より卒業論文作成に向けた専門的な教育指導を受けるためにゼミ選択を行うことができる。	・成績評価は、シラバスに評価基準を明示し、定期試験等の適切な方法で習得状況を確認し適切に単位認定している。 ・また、科目毎に成績相談期間を設け、学生からの成績評価に関する質問に応じている。	・卒業論文指導は、ゼミの教員ごとに適切に行うが、共通の評価尺度としてルーブリックを活用している。 ・また、ゼミ以外の教員による指導を受ける場として、研究室単位での中間報告会と、学年全体での最終報告会を開催している。 ・卒論本体についても、指導教員相互による点検を実施している。	・学科の教学 WG を中心に定期的に会議を開催し、その内容を学科会議で報告している。 ・また、成績および SP 対策 WG において授業の出席状況を把握し、ゼミ担任を通じて指導している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・基礎的科目から専門科目まで総合的・体系的な履修ができる。	【長所】 ・2 年次から早期に専門的な教育指導を受けることができる。	【長所】 ・なし	【長所】 ・ルーブリック及び複数教員の指導によって、研究内容の充実化を図ることができる。	【長所】 ・授業開始の 3～4 週目の出席状況を確認し、早期対応を図る。
	【特色】 ・オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目があり、文理融合の教育が実践できる。	【特色】 ・1 年次から少人数の基礎ゼミナールを開講することで、細やかに学生教育を試みている。	【特色】 ・なし	【特色】 ・ルーブリックの導入により卒論の要件が学生だけでなく教員に対しても明らかとなっている。	【特色】 ・通常の学生だけでなく SP の学生への対応も可能となる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・多様で幅広いプログラムを用意しているが、学年別の受講率にバラツキがみられる。	【問題点】 ・学生の希望に基づき 2 年次のゼミ編成を行うため、ゼミ間および研究室間で人数のバラツキが生じている。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・学生にルーブリックの内容を分かりやすく伝える必要がある。	【問題点】 ・精神的不安や体調不良により単位取得状況が芳しくない学生がいる。
	【課題】 ・プログラム内容を見直し、学生が受講しやすいようなシステムへと改善する。	【課題】 ・人数の比較的少ないゼミや研究室については、その特色や魅力を学生が理解できるよう説明を改善する。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・学生がルーブリックの内容を把握できるよう、ゼミにおいて徹底的に周知する。	【課題】 ・学生本人とご家族に面談を実施するとともに、状況に応じて保健室と連携しながら早期に対応を図っていく。
根拠資料名	講義要項（シラバス）、履修のてびき、戦略企画委員会会議資料	学科会議資料	講義要項（シラバス）	卒業論文抄録集、ルーブリック	学科会議資料

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

２．学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☑　している ☐　一部している ☐　していない	☑　行っている ☐　一部行っている ☐　行っていない
点検項目に対する現状説明	・面接時においては、アドミッション・ポリシーを踏まえたうえで、主体的に学修できる人材かを確認している。 ・また、事前課題については、評価の基準を示した用紙を担当教員に渡して、面接担当によって評価のばらつきがないように取り組んでいる。	・面接後、担当教員間で学生の受け入れに関する情報交換を行っている。 ・また、学科の入試選考会議において、学生の受け入れの適切性について総合的に点検・評価を行っている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・複数の推薦入試において面接を実施することにより、受験者の問題意識や学修意欲、人物等を勘案した入学者選抜ができる。 ・また、評価を点数化することで、公正な入学者選抜ができている。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	各入試の募集要項（大学ホームページ）	入学者としての要件

2025（令和 7）年度　基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

３．教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価（☑を記入）	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ している ☐ 一部している ☐ していない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☑ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☑ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する現状説明	・分野及び研究室の特色を示し、学科会議等で検討をしている。 ・教員募集の際には学部・学科の方針を踏まえた内容を提示している。また、担当科目も明示している。	・分野及び研究室の特性や教員の年齢構成･専門分野を考慮するとともに､加えて、1 研究室 3 名体制とし、2 分野 4 研究室体制としている。	・教員採用は一般公募として、大学のホームページ、JREC-IN で募集情報を掲示している。 ・昇格等は自己申請を基本とするが、大学の定める審査基準に基づき公正かつ厳格に実施している。	・学生が回答する授業評価アンケートの結果に基づいて､各教員が授業改善に取り組んでいる。 ・また、必要に応じて学生からの聴き取りを実施することで、問題把握に努め、改善を図っている。	・学科の人事委員会で人事計画を立案し、これを学科会議等で確認･共有している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・1 研究室 3 名体制とすることで、教育・研究面における学生へのサポートが強固となる。	【長所】 ・	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・オホーツクの研究フィールドを活かした特色ある分野・研究室名称としている。	【特色】 ・	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・教員枠 12 名に対し、教員採用に至らなかったため、11 名で運営している。さらに疾病療養により教員 1 名が休職中のため業務バランスに問題が生じた。	【問題点】 ・教授が 1 名不足している。 ・2 名の募集を行ったが、審査基準を満たす応募者がいなかった。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・若手の助教 1 名を特別に枠取りし募集を行ったが、応募がなかった。次年度は定年退職により、2 名不足するため、募集・採用を行う。	【課題】 ・専門分野に関連する学会にも募集情報を掲載する。 ・研究環境の整備により教授の昇格を検討する。	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学部・学科・課程紹介 教員公募案内（ホームページ）	学部・学科・課程紹介	資格審査委員会資料	授業評価アンケート	学部・学科・課程紹介

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　　千葉　晋
学科名・専攻名　北方圏農学科

１．教育に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■リメディアル教育を活用した学生の基礎学力向上 1 年次のリメディアル教育「文章表現」の教材受講によって文章読解と記述能力を養成し、学習習慣を付けさせることで基礎学力向上をめざす。原級・留年率を低下に取り組む。	■2024 年度入学者から適応される新カリキュラム内容の改善 令和 6 年度（2024 年度）の入学者から適応される新カリキュラムの内容について、教員・学生双方からのフィードバックでより良いものとしていく。	■1・2 年生を対象としたプロジェクトの応募と実施 1・2 年生を対象とした任意参加のプロジェクトを立ち上げ、早期に研究や実験に親しんでもらうことにより、3・4 年次における研究室活動を活性化する。
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年～令和 7 年）	4 年サイクル（令和 6 年～令和 9 年）	4 年サイクル（令和 6 年～令和 9 年）
実施スケジュール	2022 年度：リメディアル教育の実施 2023 年度：受講者の GPA 追跡調査と原級率調査 2024 年度：受講者の GPA 追跡調査 2025 年度：受講者の GPA 追跡調査と留年率調査	2024 年度：1 年生への適応と検証 2025 年度：1・2 年生への適応と検証 2026 年度：1～3 年生への適応と検証 2027 年度：全学年への適応と検証	2024 年度：1・2 年生への適応 2025 年度：　1・2 年生への適応と 3 年生における検証 2026 年度：1・2 年生への適応と 3・4 年生における検証 2027 年度：1・2 年生への適応と 3・4 年生における検証
目標達成を測定する指標	・受講者の GPA ・原級率 ・留年率	・シラバス作成 ・授業評価アンケートによる検証	・各プロジェクトの内容と実施回数、参加人数 ・研究室志望調査書への記載
自己評価（☑を記入）	☑　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☑　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☑　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	自学自習教材の導入と学科複数教員の勉学指導により、プレテストで文書作成能力の不足していることが判明した新入生に文章の読み取りと作成を指導した	学科教学 FD 委員と学科長が主導し、学年における配当科目数と開講学期の見直しを行い、カリキュラムの立案、それを落とし込んだ時間割を作成した	ウシ活、森活、北農鍋などのプロジェクトが立ち上がり、任意の 1・2 年生が参加した
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・文章読み取りと作成能力の向上による学力全体の底上げ	【長所】 ・学生が履修しやすい科目配置となった	【長所】 ・1・2 年次からの専門内容への自発的・積極的取り組み
	【特色】 ・学習習慣、達成感を身につけさせる	【特色】 ・3 年次に研究室活動に時間を割きやすい配分となった	【特色】 ・北海道らしい、学科らしい活動の内容
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・教材の経費とこめ細かい指導の業務	【問題点】 ・新カリキュラム対象者 1 年次は特になし	【問題点】 ・教員の負担増
	【課題】 ・経費負担への学部の理解、課題未提出者への対応	【課題】 ・授業評価とそれによるフィードバック	【課題】 ・各プロジェクト、毎回の参加人数の制御
根拠資料名	・学科会議資料 ・教学・FD 委員会資料	・シラバス ・履修の手引き ・時間割	・学科会議資料 ・各プロジェクトの SNS

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

２．研究に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■研究会、学会、学術集会の開催 　研究環境の活性化のために、研究会、学会、学術集会の開催を積極的に誘致する。	■地域に根ざした研究計画の立案と実施 　地域の課題を解決するような研究をさらに立案、推進していく	
実行サイクル	3 年サイクル（令和６　年～8 年）	4 年サイクル（令和６　年～9 年）	年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール	・4－9 月実施予定立案および打診 ・4－3 月研究会、学会、学術集会の開催	・4－9 月研究計画の立案と調整 ・4－3 月研究の実施	
目標達成を測定する指標	・研究会、学会、学術集会の開催回数	・卒業論文題目 ・網走寒冷地農場プロジェクト研究への課題応募 ・網走寒冷地農場年報トウフツ	
自己評価 (☑を記入)	☐　達成した ☑　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☑　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	地方部会レベルの学会（2026 年度北海道生殖医学会）を当番校として開催した	農林畜産業、生態保全、環境保存とその利用に貢献している	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・大学・学部・学科の外部への周知	【長所】 ・北海道、道東、網走への地域貢献	【長所】 ・
	【特色】 ・農大、道東オホーツクらしい学会	【特色】 ・東京農業大学らしさとその強みによる還元	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・学会開催の補助要員と機器の不足、交通アクセス・宿泊施設	【問題点】 ・すべての地域課題、地域の問題はカバーできない	【問題点】 ・
	【課題】 ・全国大会の誘致	【課題】 ・人員・資金の不足	【課題】 ・
根拠資料名	・学会講演要旨集 ・学会理事会の議事録	・各研究室の卒論発表会要旨 ・網走寒冷地農場年報トウフツ ・令和 7 年度東京農業大学大学院生物産業学研究科事業概要	

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

３．その他に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■学生のより良い生活習慣サポートの取り組み 　フレッシュマンセミナーと連携しながら、学生の登校をうながし、授業を中心とした生活習慣作りをサポートし、留年率と退学者数、不登校人数を減らす。教員と学生とのコミュニュケーションをはかる		
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年～7 年）	年サイクル（令和　　年～　　年）	年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール	・4 月企画立案と施行 ・5 月実施結果の検証		
目標達成を測定する指標	原級率 留年率 不登校者数		
自己評価 （☑を記入）	□　達成した ☑　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更	□　達成した □　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更	□　達成した □　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・学生全員に対して年 2 回、必要であれば追加の面談を実施し、学生生活における習慣作りをサポートしている		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・きめ細かい指導	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・教員と学生の一体感	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・一部の学生が指導、連絡に応えてくれない	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・保護者も含めた関係の構築	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・面談の出欠記録 ・学生カルテ（成長の記録）		

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

学部・研究科名	生物産業学部
学部長・研究科委員長名	千葉　晋
学科名・専攻名	海洋水産学科

１．教育に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■カリキュラムの深化 令和６年度からの新たな教育カリキュラムを実施し、魅力ある学科の専門分野と学部横断的学び行うために、定期的な評価･見直しを行い、改善する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和６年～令和７年）	年サイクル（令和　年～　年）	年サイクル（令和　年～　年）
実施スケジュール	＜令和７年度＞ ・学科および学部横断型カリキュラムの学科プログラムの実施および課題抽出・見直し（～3 月） ・海洋水産基礎実験、臨海実習（一）・（二）および海洋水産体験実習のメニューの見直しおよび改訂（～3 月）		
目標達成を測定する指標	＜令和７年度＞ ・基礎実験・臨海実習および海洋水産体験実習のメニューの改訂 ・学科および学部横断型カリキュラムの問題抽出・見直し		
自己評価（☑を記入）	☐ 達成した ☑ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・令和 7 年度新カリの学部横断カリキュラムに関して学科のプログラムの検討を行った。 ・海洋水産基礎実験・臨海実習に関しては、それぞれの内容を検討検討した。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・カリキュラム・ポリシーに沿った学科プログラムを展開している。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・生物産業学的視点で基づく学科プログラムを構築	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・実験や実習が多いことに加えて、実施時期が限られ、天候にも左右されることから、スケジュール管理が困難な時がある。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・予備日の設定や実施時期の見直・事前調整を図る。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学 HP の教育研究上の目的・教育目標・３ポリシー シラバス		

２．研究に関する総合的事項

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

	①	②	③
目　標	■地域のニーズに則した研究活動の実施 学科の専門性を活かし、網走市、オホーツク圏、北海道、さらにつながりを持つ海域・地域におけるニーズに応えるべく、教員・研究室それぞれの研究活動の幅を広げ、内容を深化させる。その研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和 6 年～令和 7 年）	＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）	＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール	＜令和 7 年度＞ ・現在実施している取組内容を整理し、可視化する（～3 月） ・地域との共同研究の推進（～3 月）		
目標達成を測定する指標	＜令和 7 年度＞ ・地域との共同研究の現状把握、課題の抽出 ・共同研究の開始・推進状況		
自己評価 （☑を記入）	☐　達成した ☑　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・各教員が網走市、オホーツク地域、北海道やその他の地域のニーズに応える共同研究を推進している。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・全ての学科教員が地域の企業・団体・自治体と協働している。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・地域のニーズ及び課題に応える研究を実施している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・取り組み内容の可視化が不十分な箇所がある。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・大学 HP の教員紹介の充実化。 ・プレスリリースを積極的に行う。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学院事業概要 大学 HP の教員紹介の業績		

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

３．その他に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■学科の魅力向上と認知度の強化 ディプロマポリシーに沿った高い目的意識を持つ学生を確保するために、学科の魅力的のさらなる向上と認知度の強化を展開する。	■高校生・受験生へのアプローチの強化 ディプロマポリシーに沿った高い目的意識を持つ学生を確保するために、高校生・受験生へのアプローチを強化する。	
実行サイクル	2 年サイクル（令和７年～令和８年）	2 年サイクル（令和７年～令和８年）	＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール	＜令和７年度＞ ・学科の特徴の明確化（～10 月） ・広報活動の強化（～3 月） ・オープンキャンパス・説明会のメニュー見直し・充実化（～3 月）	＜令和７年度＞ ・高大連携プログラムの実施（7 月） ・出張講義・実習の実施（～3 月） ・就職・進学実績の積極的な情報発信（～3 月）	
目標達成を測定する指標	＜令和７年度＞ ・学科の強み・特徴の整理および抽出 ・学科公式 SNS の投稿数 ・オープンキャンパス・説明会への参加者数	＜令和７年度＞ ・高大連携プログラムの企画の評価作成、課題の抽出 ・高大連携プログラム参加校および参加者数 ・出張講義・実習の実施および参加者数	
自己評価 （☑を記入）	☑　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☑　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・学部の方針に基づき学科の広報活動の策定を行い、SNS を利用するなど積極的に広報活動を行った。 ・SNS 登録者数が大幅に増加した。 ・オープンキャンパス等のイベントを毎に参加学生の意見に基づいて見直しを行った。	・高大連携プログラム「オホーツク学」を関西圏及び関東圏からの高校生に対し実施した。 ・併設高校生や近隣の高校生に対して、実体験を伴う実習を実施した。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・体験をともなうオープンキャンパスを実施している。	【長所】 ・自然豊かなフィールドを利用した実習を実施している。	【長所】 ・
	【特色】 ・キャンパスだけではなく実習フィールドを体験することができる。	【特色】 ・実体験を伴う実習を通して、オホーツクの自然・生物・生物産業を体験することができる。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・情報発信に改善点がある。 ・さらなる学科魅力の抽出と発信の必要性。	【問題点】 ・イベントや複数の実習を同時に行う時もあり、それぞれの実習やイベントへの対応が困難な時がある。	【問題点】 ・
	【課題】 ・定期的かつ効果的なタイミングでの SNS の発信。	【課題】 ・各イベントや実習の効率的な運営のための見直しを図る。	【課題】 ・
根拠資料名	学科会議議事録 生物産業学部入試対策実行委員会資料	学科会議議事録 生物産業学部入試対策実行委員会資料	

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式 2

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　千葉　晋
学科名・専攻名　食香粧化学科

1．教育に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■教育カリキュラムの見直しとシラバス設定 学科のアドミッションポリシーを達成するための、天然資源および食品や香粧品素材の性質や製造原理など基礎から応用まで総合的な学びについて、重点ポイントを明快にし、科目間連携を意識したシラバスを策定する。	■学科プロジェクトの効果計測 プロジェクト参加者の追跡調査を行い、経験が成績、卒業研究および就活に現れているのか計測する。また、受験生に訴求できているのか、会社での就業に役立っているのか好循環が形成できているのか調査する。	
実行サイクル	2　年サイクル（令和　7 年～　8 年）	2　年サイクル（令和　7 年～　8 年）	年サイクル（令和　年～　年）
実施 スケジュール	・学科の学びの重点ポイント(学問内容)の再確認　令和 7 年 4 月～12 月 ・科目間のシラバス調整（重点ポイントのダブらせ方等）令和 7 年 11 月～12 月 ・シラバス見直し 令和 8 年 1 月	在校生調査　卒業論文研究への取り組み　令和 8 年 1 月 在校生調査　4 年生就活での効果を聞き取り　令和 7 年 9 月 卒業生調査　令和 7 年 10 月収穫祭時訪問 OBOG に聞き取り or メールでの調査 受験生調査　令和 7 年 11 月　年内入試面談時に聞き取り	
目標達成を測定する指標	科目連関表、科目相関図	聞き取り結果の内容吟味（学科会議議事録の報告事項）	
自己評価 （☑を記入）	☑　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☑　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新カリキュラムになって 2 年目を迎え、反省点や改善点を確認した。とくに科目の連間が出来ているのかを再確認した。スケジュールに則って概ね実施した。	例年通り、同プロジェクトで培われた経験が、就職活動に活かされているといった調査結果を得ている。また、この活動は受験生にも浸透していることも確認できた。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・学科の教育を特徴づける活動となっている。	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・
根拠資料名	・学科会議議事録 ・授業評価アンケート ・シラバス	・特になし	

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

２．研究に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	■共同研究等を活用した研究プロジェクトの実施 食品、香料および化粧品をテーマとするプロジェクトを関連企業あるいは研究機関と企画・実施するとともに、この研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。 共同研究の対象を海外研究機関に広げられるよう、研究の推進と国際交流を検討する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和　7　年～　8　年）	年サイクル（令和　　年～　　年）	年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール	・日本香堂ホールディングスとの研究プロジェクトの推進 令和 7 年 5 月～12 月 ・企業との共同研究のおよび公募型研究資金の申請（通年）		
目標達成を測定する指標	・契約の締結、寄付金など ・研究業績（学術論文、学会発表）		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☑ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	日本香道 HD には教育・研究活動に支援（講師派遣）をいただいた。また、日本香堂 HD と学科共催のビジネスコンテストを 2 部構成（アイデア部門、実装部門）で開催した。食品および化粧品関連企業との共同研究は継続できている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実学を学ぶことができる。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・海外研究機関との交流	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・学科会議議事録		

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

３．その他に関する総合的事項

	①	②	③
目　標			
実行サイクル	＿＿＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）	＿＿＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）	＿＿＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）
実施 スケジュール			
目標達成を測定する指標			
自己評価 (☑を記入)	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更	☐　達成した ☐　一部達成した ☐　達成できず要継続 ☐　達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明			
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式 2

学部・研究科名　生物産業学部
学部長・研究科委員長名　千葉　晋
学科名・専攻名　自然資源経営学科

1．教育に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	学科のフィールドを活用した幅広い学びを展開するための選択科目「自然資源経営学実務演習」（一）（二）（三）の実施と評価	研究室の学びとその「目玉」となるプロジェクトの企画と実施	出席状況の把握、成績不振学生の早期把握、個別指導（原級者・留年者対策）の実施
実行サイクル	4 年サイクル（令和 5 年度～令和 8 年度）	2 年サイクル（令和 6 年度～令和 7 年度）	1 年サイクル（令和 7 年度）
実施スケジュール	4 月：ガイダンスの実施（履修登録） 5 月～1 月：各プログラムの実施 1 月：成績評価と点検	4 月と 10 月：プロジェクトの企画状況に関する報告 オープンキャンパス期間：展示用パネルの作成とその更新 3 月：『オホーツク産経論集』におけるプロジェクト成果の公表 随時：各研究室でのミーティングとプログラムの実施	4 月と 10 月：単位取得状況の把握と保護者への通知 5 月と 11 月：出欠状況の把握（全体共有） 5 月と 12 月：個人面談の実施（ゼミ毎）
目標達成を測定する指標	アンケートによる満足度調査	展示用パネルの内容 プロジェクトの進捗状況もしくは結果	出欠状況の確認 面接実施状況の記録
自己評価（☑を記入）	□ 達成した ☑ 一部達成した □ 達成できず要継続 □ 達成できず目標の変更	□ 達成した ☑ 一部達成した □ 達成できず要継続 □ 達成できず目標の変更	□ 達成した ☑ 一部達成した □ 達成できず要継続 □ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・履修者の成績評価は概ね良好である。	・各研究室のプロジェクト活動をオープンキャンパスにてパネル展示することが出来た。	・個人面談や定期的に出欠状況を確認するとともに、学科で情報を共有した。 ・対応策は学科会議で検討したうえで、教員が個々に対応した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・学生の幅広い関心に応じて 3 年間選択することが可能である。	【長所】 ・研究室の学びを主体的に身につけることができる。	【長所】 ・授業開始の 3～4 週目の出席状況に基づき、早期対応を図れる。
	【特色】 ・ホーツクの自然環境等を活かした実践的な研究となっている。	【特色】 ・研究室の学びの特徴をふまえた実践的な研究となっている。	【特色】 ・とくになし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・幅広い領域を学べるようにしたが、受講率には学年でのバラツキがみられる。	【問題点】 ・各研究室のプロジェクトより継続的に展開する必要がある。	【問題点】 ・学生と保護者間で意思疎通が取れていないことがある。
	【課題】 ・プログラム内容を見直し、学生が受講しやすいようなシステムへと改善する。	【課題】 ・プロジェクト活動による学生の実践的な教育効果に繋がるように内容を進化させる。	【課題】 ・学生教務課とも連携し、学生及び保護者とコミュニケーションをとる環境を整える。
根拠資料名	講義要項（シラバス）、履修のてびき、 戦略企画委員会会議資料	学科会議資料、各研究室会議資料、『オホーツク産経論集』	学科会議資料

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式２

２．研究に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	研究室の「目玉」プロジェクトの推進		
実行サイクル	1 年サイクル（令和７年度）	年サイクル（令和　年～　年）	年サイクル（令和　年～　年）
実施スケジュール	随時：各研究室でのミーティングとプログラムの実施 3 月：『オホーツク産経論集』におけるプロジェクト成果の公表		
目標達成を測定する指標	プログラムの進捗状況もしくは結果		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☑ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・各研究室において「目玉」となるプロジェクト活動を実施したが、研究成果につなげるという点からはやや課題が残った。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・各研究室の取り組みや学生の実践内容が理解できる。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・生物産業学部の理念に基づき、他学科との連携を意識している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・『オホーツク産業経営論集』に活動内容を掲載したが、取り組み紹介にとどまっている。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・プロジェクト活動の進化とともに、研究成果としても進化したものとする。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2025（令和 7）年度　包括的な点検・評価報告書

様式 2

3．その他に関する総合的事項

	①	②	③
目　標	学科の魅力の発信強化	高校との連携強化	
実行サイクル	1 年サイクル（令和 7 年度）	1 年サイクル（令和 7 年度）	＿＿年サイクル（令和　　年～　　年）
実施スケジュール	5 月：学科パンフレットの作成 6 月：学科パンフレットの納品 6 月以降：入試イベント等での学科パンフレットの配布 随時：SNS と学科 Web の更新	5 月下旬～7 月上旬：高校訪問 随時：高校での模擬講義等の実施	
目標達成を測定する指標	学科パンフレットの刊行 SNS の投稿数 Web の更新	高校訪問や模擬講義等の実施数	
自己評価（☑を記入）	□　達成した ☑　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更	□　達成した ☑　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更	□　達成した □　一部達成した □　達成できず要継続 □　達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・オープンキャンパス等のイベントでパンフレットを配布することができた。農業高校向けのパンフレットを作成した。 ・Instagram 等、SNS による広報を展開している。1 月から 3 月まで特集を組んで学科の学びを紹介している。 ・卒業生向けの同窓会を実施して、学科の魅力を発信した。	・高校訪問および模擬講義を通じての学科の教育・研究の紹介ができた。 ・保護者向けや教員向けの学習会、同一高校に複数回、模擬講義を行うなど、高校との連携の質を高められた。	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・パンフレットは折りたたみ式のインパクトのある形状のパンフレットとなっている。	【長所】 ・模擬講義は学科教員が直接、高校生に研究の内容を伝えられる。	【長所】 ・
	【特色】 ・学科のフィールドでの実践的な学びを表現した内容になっている。	【特色】 ・文系学科なのにフィールドワークが充実している実践的学びを伝えられる。	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・多くの方が見る学科 HP は、より充実させる必要がある。	【問題点】 ・高校訪問において、入学センターとの共通認識が必要である。	【問題点】 ・
	【課題】 ・学科 HP を検討する担当者を明確にして対応していく。	【課題】 ・高校訪問の重要性から、入学センターと連携しながら、より戦略的に高校訪問を実施する。	【課題】 ・
根拠資料名	学科パンフレット、Facebook、Instagram、HP	学科会議資料、戦略企画委員会資料	